



宗旨奉行勤役次第

洋学文庫  
文庫8  
D 394





宗肯奉行勤役次第

文庫 8  
D 394

010190617942







支丹寺不達之義あり。此寺切支丹之法に任用せしむるに  
と感一世の言も獨りて追て右寺門に割替あり。又廣長  
十九宮年と云ふ久保加賀守志澤院 台原と云ふ久保  
ら我上切支丹寺南寧寺と破印あり。海内一統あり。宗門  
は心の割替あり。又書く及後支丹寺門に改めし。信  
法基院極清代元和元年 宗門切支丹寺あり。若相  
ある宗門あり。切支丹寺門に改むる者。以宗門と一且那寺  
教化と云ふ。其の宗門に改むる者。又宗門に轉  
者あり。たゞ通し仕えし。作付あり。

一 風向

直入那有年村百姓邪宗門に改むる者。元和元年月日

斬罪

年 齡 不 知 斬 罪

轉切支丹  
内層通し邪宗門離れし事  
一名不知

斬罪

邪宗門に轉ず。同年月日。年 齡 不 知 斬 罪  
一 太 郎 七 郎

斬罪

直入那有年村百姓邪宗門に改むる者。同年月日。年 齡 不 知 斬 罪

一 三 人

其後寛永十酉年。宗門改むる者。元和元年。邪宗門に轉ず  
の仕えし。作付あり。

一 長 店

大 罪



大野郡石ヶ原村百姓和宗門不轉身寛永十四年四月  
二十日七拾貳歳と云

一 半助

斬罪

右同郡石ヶ原村百姓和宗門不轉身同年月日云云  
或後四歳と云斬罪

一 小か

斬罪

右半助妻和宗門不轉身同年月日云云或後三歳  
と云斬罪

一 いち

斬罪

右同郡大瀬村百姓和宗門不轉身同年月日云云  
斬罪

いち  
一 清助

斬罪

右同村百姓和宗門不轉身同年月日云云  
斬罪

一 丑人

但多度と云ハ人由仕云々或後三歳と云  
内犯罪者九人と認上り是ハ万治元年  
と云如云九人と書上り事

いち  
一 市島左衛門

斬罪

大野郡砂尻村百姓左衛門重科者  
万治元年十月二十日三拾三歳と云斬罪

右通古事同十五歳年肥前島系後云云  
万治元年十月二十日三拾三歳と云斬罪



撰花散一斗有之、等、彼郡宗門の制禁、及、前、後、の、律、出、  
口、此、一、万、治、三、子、幸、也、月、一、以、肥、後、領、之、田、切、支、丹、石、門、の、内、  
及、支、丹、石、の、捕、獲、之、者、右、の、律、之、  
有、之、候、長、崎、表、正、政、所、  
次、申、粗、大、通

一 万治三子幸六月十九日長崎正政所  
西家先中より告げし者多人に書状を添付奉寄、  
白田村表石井田の内大工川村庄石井、  
之、訴、人、方、  
依、之、郡、中、川、  
小七七馬中川初三馬松野二馬左馬、  
依、之、郡、中、川、  
小七七馬中川初三馬松野二馬左馬、

一 家、之、小、島、島、有、之、捕、せ、在、右、馬、一、家、ハ、池、田、孫、三、郎、捕、せ、先、  
大、事、舞、子、改、村、に、居、り、丹、早、川、七、五、馬、同、村、に、在、改、捕、せ、  
日、七、月、二、日、池、田、孫、三、郎、中、川、初、三、馬、連、長、崎、正、政、所、に、  
呈、上、  
但、池、田、内、吉、利、支、丹、之、者、及、池、田、初、三、郎、  
等、之、訴、人、或、ハ、池、田、内、類、門、の、内、  
一、同、年、八、月、二、日、  
本、浦、畑、村、支、丹、長、助、梅、井、  
川、之、長、崎、  
呈、上、







取詳るるを一通承用する事とて後い何事か  
に成り給ふ

由事の様は書物より上りし事より又心より人  
字音に望み言尸を交りけりかも相違は産らて  
うきと伊天連といふよき心も同しとて初まをさ  
たすもやよろしくのあんよ海河との内得とありて  
うきのかさ絶果まゆたきのことく頼むまより  
たの後悔一念も氣さくして人々を嘲と成終  
ね死は人の命を降し苦患をせめられうきもは産有方  
交る者也仍らざる事とて人字音にきゆめんと如  
萬治三年  
為本村 庄三郎

十二月十九日

本浦田村 長助

一 實文元且辛七月の宗申在所毎月宗門に改仕る給は  
給又毎年一度元九月の改仕毎月改仕給は改仕に血判の  
給一宗一帳に仕立其權那寺に院にの奥書判  
刑とあり給は 伊玉の誓紙書文とて通

天罰起證文前書一書

一 和共宗門切支丹とて曾毎西暦日天何移西暦日とて  
日本宗門大小の神祇殊に八幡大菩薩を宗山大権現  
名可有る事御書

一 心中の自代切支丹宗門にお合符を有らして其伊天  
傳心しよす事御書



るのあ人きよなるあとの小骨とまゝしてそのかき  
 絶果志ゆいたきのこゝ頼母まゝうりない後悔の  
 一念の氣さきこゝて人々朝と成終に死にたは  
 り節の苦楚にせあられうと幸いなる有る者も仍  
 きりきん字音のきゆめんと也

寛文元年七月晦日

何宗何寺と旦那

主人何り血判  
 右人女房血判  
 右人何り血判  
 右人娘血判  
 下人血判  
 右人女房血判

何宗何寺と旦那

下女名血判  
 下女名同  
 下人名同  
 下人名同  
 下人名右同  
 下人名同  
 右人女房同  
 右人娘同  
 右人何り同

太田女全何人世傳旦那無事屋上

右同日

何寺名判



右男女合何人把僧具那於平西原以上

右同日

何寺名判

每月宗旨改振之覽

天符起發文前書之事

一文  
一右同斷

一吉利芝丹聖紙之文言右同斷

寛文元年八月晦日

名右同斷

但右毎月之聖紙之書主人の事は云々  
ふ三人の事毎度由書附之仕主人名判仕聖月朔日  
ふ三日の官其頭之可き也

右之當時迄之宗門判刑帳其月書物之修之事

一 同八月右之宗門改帳其下諸出家蓮成寺打

寄奥書判刑者之別あり其法地其處之其修之根

井市乃其出席諸出家之判刑之面あり

右之當時迄之寺判形之修之事

一 同月 湯腹内右之者一切之丹之臨濟毎年一序宛為

臨濟孫那中より作修之形又宗門之面之醫者宗内町人

并寺社宗内辰毎年一序宛為臨濟之修也依之毎月臨

濟之臨之事

但此修之臨濟之書序より借寄之る事之事細大

此事論修修之修之修之記











く内名急中後山屋より年寄り古沢九郎右衛門田道又馬  
らり中より即江戸に言上りては火急に後山屋より右  
者より石中聞言上りては事

寛文五年正月廿八日

板植新右衛門  
陸山屋又

一 同年二月廿八日江戸屋敷又新右衛門在り打廻切支丹宗名宗豊に付  
在り通内宗名中より書出有様

覚

一 先年切支丹宗門よりいり者あり及り其孫の名近書記  
并長崎より書勢門より者あり縁者親類近帳書載並り  
在り中事



一 在りて五廻り神角九重山に家つと長根村に寺あり若  
し富成者ありとて者近中出り候に西彦宗より下り一丁名存  
在り中より急務由事より作付し旨中流臨海局  
持僧侶下りしをせ見たり但此寺に住持候に依り  
仁者お計りしに降中候に候に在り廻りしに世見候  
より中事

一 湯家中侍不家内候に候に通面より人より名入  
あり候に事

一 舟田寺中并所中より僧侶より舟田寺よりお集所寺  
切一町に候に書宗宗より富成ものありとて者近中出候  
に候に事下り一丁名存中出り者急務由事

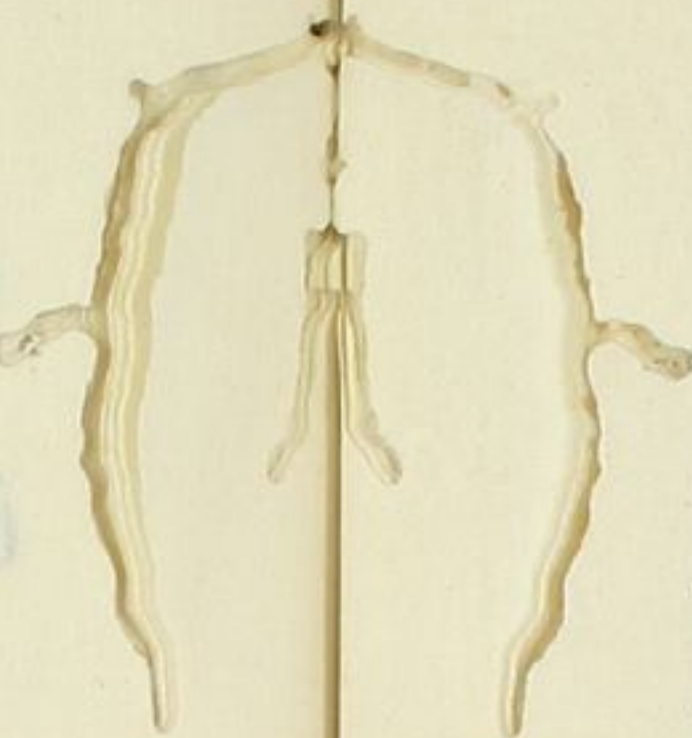


言作付くちりし時臨終しきせ見たり但幸に任  
持し度右在り任付たり自家に子不世性度可先  
子家より承りし世に承りてし事

一 三依町大洞町者附所し由般加子孫可浪山町  
者信信号其所裁判し其の日前西日附一因臨終し  
りせ久し中儀兵中流渡右分田所同家言は仕事

一 皇将役者臨終し後妙此中のいそ致しり言せり実  
は但し者より各上り中流渡り可あり右日事

一 舟田所人内兵皇将役者内儀者相計大り中付  
不富成者有年承りてり中流渡りて大是月日  
度宛右大各下り中流渡り中付り事



一 在り百姓の内兵三依大洞町人内由般加子内家  
各相計大り中付不富成者有年承りてり中流渡  
りて元是年二三度宛右内兵中流渡り事  
一 百姓町人内上各方へ承りてり中流渡りてり各上  
り承りてり事

一 在り相廻り刻若り中者多し町にありし由皇将役  
者由信信号承りてり事

右に渡りし時 流るりし条りし得是以上

中川花人 花押  
中川為三郎 口  
中川平三郎 口

寛文五年己二月可分



臨山若吏及

松桓彰事及

一寛文十一年三月廿六日切支丹宗方有改道之能回新島  
松桓彰事及在相廻之月先年之改方よりハテ常少相安  
中付之松桓通内家老中より書附五段

寛

- 一在之者先年之宗門改之切支丹佛男計之編  
由是後ハ男女号之ハ編ア代事
- 一出家之者任持之モ同宿之坊之編ア代事  
公儀之法度之事よりハ侍中之限之下ノ小僧毎年  
編中事よりハ難ハ任持之編ア代事 公儀編ア



- 一在之者先年之宗門改之切支丹佛男計之編  
由是後ハ男女号之ハ編ア代事
- 一出家之者任持之モ同宿之坊之編ア代事  
公儀之法度之事よりハ侍中之限之下ノ小僧毎年  
編中事よりハ難ハ任持之編ア代事 公儀編ア
- 一在之者先年之宗門改之切支丹佛男計之編  
由是後ハ男女号之ハ編ア代事
- 一出家之者任持之モ同宿之坊之編ア代事  
公儀之法度之事よりハ侍中之限之下ノ小僧毎年  
編中事よりハ難ハ任持之編ア代事 公儀編ア
- 一在之者先年之宗門改之切支丹佛男計之編  
由是後ハ男女号之ハ編ア代事
- 一出家之者任持之モ同宿之坊之編ア代事  
公儀之法度之事よりハ侍中之限之下ノ小僧毎年  
編中事よりハ難ハ任持之編ア代事 公儀編ア











り月隔下切支丹佛臨濟海三田事... 別九事...  
臨濟海字田事... 古傳... 地... 如... 是...

一 同八月二十七日... 臨濟海... 長崎... 政... 正... 南... 獄... 傳... 近... 中...

別紙中... 其元... 臨濟... 言... 元... 傳... 此上...

八月十七日

河野持古

中川平吉

中川善三郎

中川助進

一 同月廿四日... 臨濟海... 長崎...











包ふ方々を枚取おは後毎月百貫貯蓄あり臨り申は後七時  
より西後度より有るらるいさる付切支母事行はる月早く在るは  
此出共帛扱書臨備五具箱入申倉能主は保家元  
中より作渡し

但先年一切丹宇凡爰當時の本字と宇跡より空子地  
より五元五陽正山の中修古瓦有り殺十年も入蔵せし  
包根漏落しは元字方支取りあり申文政年中  
取崩し成りたる門帳あり入店且修板四枚并臺  
一つ有る中瑤瑤のしきものあり入店元先年古夫の  
造りし堀ありありと申事なるは申爰後家より右修板  
并臺郡方没し元あり

一右通去寛文十一年迄の世表より字修り毎年の臨備五具  
より長崎より仕送備前よりありあり右臨備書右左去冬  
長崎の政より借用し作入申事臨備改五具と事

長崎の臨備の借用の事

一万治三年長崎より借用ありあり申進より借用あり通

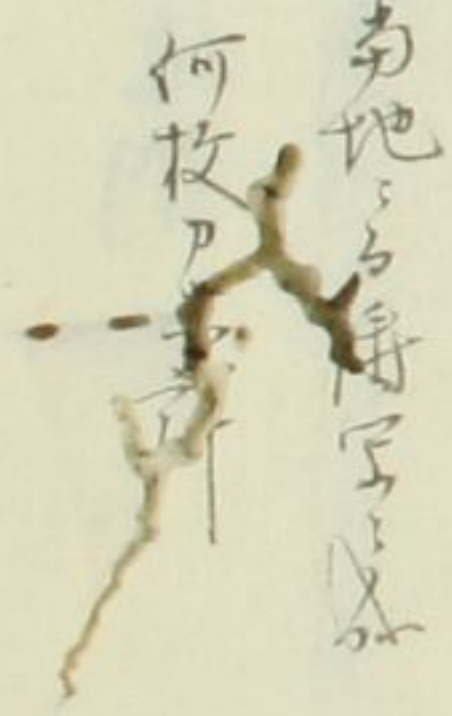
一万治三年より臨備を枚添借用

右添納の事

一寛文十一年七月日或枚添借用

同八月添納 是は南地より海字あり

一同年より同添借用





右同十二年十二月抄込納

但尚春日在申改可

一 延寶元丑年二月同抄込借用

右同年八月抄込納 是ハ切支丹宗家傳ノ者ニ  
テ用ナリ

一 同年八月同抄込借用

但一上通込納ニ事ハ真ニ借用ナリ

右同二宮年九月抄込進 但轉切支丹器用ナリ

一 天和二戌年九月同抄借用 何枚カ未詳

右抄込納不詳 抄込納ノ後改

一 貞享元子年冬同抄借用 何枚カ未詳

右翌二丑年三月抄込納 内傳内ノ後改

一 同三宮年九月同抄借用 二枚

右翌之四卯年二月抄込納 右同

一 元禄元辰年正月同 一枚抄借用

但若殿様ノ抄借用ニ事ハ申中ニ事ハ進出改ノ後一統  
ニ用ナリ

右同二月抄込納

一 同年十二月同抄借用 何枚カ未詳

但翌元禄二己年春抄込下改

右同二己年同正月抄込納

一 同三年年正月同一枚抄借用

但若殿様ノ抄借用ニ事ハ申中ニ事ハ進出改

右同月末抄込納



一同年十一月同二枚出借用

但内腹下中込段

右同四年二月出借用

一同五年正月同二枚出借用

但右腹下中込段

右同二月出借用

一同年十一月同二枚出借用

但内腹下中込段

右同六年二月出借用

一同七年正月一枚出借用

但右腹下中込段

右同二月出借用

一同年十一月同二枚出借用

但内腹下中込段

右同八年二月出借用

一同九年十一月同二枚出借用

右同十年二月出借用

一同十一年十一月同二枚出借用

右同十二年二月出借用

此以後、考、此出借用、其、長、丹羽遠江、  
少、後、役、人、松、井、治、房、乃、其、方、同、信、一、聖、十、三、卯、年、乃、每、  
春、内、借、寄、出、定、例、と、申、事、



切支丹宰事

一 寛文八年九月是迄切支丹宗門者進長崎より多き口彼  
 地より宰舎ありてあり長崎の民より多きあり地より民舎中  
 付多し能く遠くありて同十九日土角島二島を其の宗門  
 八百込と名を依り自代進所と事ありて時より多し路及物多し  
 唐津浦宗門ありて是よりは南島より内八右圍にありて是  
 掛附民舎人宰判付し給ふ作候

一 陸上を多し扱給ふ事ありて掛附民舎人宰判付し是宗門  
 小柄より廻りある人お後給ふ候事ありて是より右よりあり  
 あり方より候候

一 同十月陸山を多し長崎より候事ありて是地より民舎より御付是  
 口御宗門者ありて自代病死仕りて死骸陸濱より付設  
 所を窺下り候事あり候事ありて由より政所より宗門前  
 近處を多し心候より相尋より河野権より及より中むり  
 念より思より自代病死より何村より何より者候りて病死  
 由より進り長崎より候事ありて名附西浦より候りて死骸は  
 此河津より候りて付より候事あり候事あり候事あり候事あり  
 者より候りて自附兵所より切支丹をより御付より上  
 程より取埋せり候事あり

一 同九年三月廿六日今日土角島入事ありて御宗門者入を  
 毎田村民より候事あり候事あり候事あり候事あり候事あり



修高面末の字五

一 右進の記北の者い幸の長崎の内傳有るは西新有る  
一 因十二子年正月廿八日内傳内切支丹の門の者記北の  
一 一の山川の麓野有る壇多の字五子教人のおのり  
所登る右舟右壇所の近近言田畑の淺し壇場相  
海流の都を以ては作す

切支丹の記

上五番

記
十七番
拾五番
拾五番
拾四番

下五番

拾三番
拾五番
拾五番
拾五番

西

記
記
記
記
記

上五番

記
記
記
記

上五番  
下五番

門







作付

一 同享十月十三日 関内 作付

入

大田平左 同十六年

一 寛文十一 亥年十月廿日 切支丹 作付

一 貞享三 亥年六月九日 涉免

古田興三 同七年

一 延寶八 申年十月十四日 切支丹 作付

一 貞享三 亥年六月十三日 涉免

一 貞享元 子年十一月朔日 切支丹 作付 同七年

一 元禄三 亥年六月九日 病死

井上五郎 同七年

一 貞享二 丑年三月十五日 切支丹 作付

一 同享四月廿七日 涉免

浪山市 同七年

一 貞享二 亥年六月十二日 切支丹 作付

一 元禄五 申年八月三日 涉免



大河原權六 同三年

一貞享三宮年三月十九日切支丹寺行住 信付

一元禄元辰年八月廿五日涉免大坂西役住 信付

吉田八郎三郎 同九年

一元禄元辰年九月十九日切支丹寺行住 信付

一同九子年八月朔日涉免郡寺行住 信付

井上三六七郎 同廿年 初桐分

一元禄三年七月十六日宗旨寺行住 信付

一同四未年二月廿一日涉免郡寺行住 信付

三伏小次郎 同八年

一元禄四未年二月廿一日宗旨寺行住 信付

一同十一寅年八月九日涉免

世直野甚五郎 同十三年

一元禄五申年八月十二日宗旨寺行住 信付

一寶永元申年五月九日病死

伊藤九三郎 同七年



一 元祿九子年八月三日 宗旨奉法 作付

香川 同九年

一 元祿十一宮年八月廿二日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年

一 元祿十五年正月十八日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年

一 正徳元卯年七月廿日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年

一 寶永元申年八月十日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年

一 寶永三戌年八月廿日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年

一 享保二酉年二月十四日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年

一 寶永六丑年十月廿一日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年

一 享保二酉年七月廿日 宗旨奉法 作付

飯尾 同十年



一 正徳元加年七月廿日 宗旨奉行 作付  
一 享保八加年正月十日 湯免所奉行 作付

吉田六友 同十三年

一 正徳五加年二月十五日 宗旨奉行 作付  
一 享保七加年九月三日 湯免組頭 作付

秋岡甚三郎 同八年

一 享保二加年二月十五日 宗旨奉行 作付

井上三八七郎 同五年

一 同六加年二月晦日 湯免郡奉行 作付

平子角三郎 同八年

一 享保六加年二月晦日 宗旨奉行 作付  
一 同十三年三月十七日 湯免組頭 作付

吉本屋六郎 同十三年

一 享保七加年九月三日 宗旨奉行 作付  
一 同十九加年十一月十七日 湯免郡奉行 作付

香川破五 同十六年



一 享保八卯年正月十日 旨奉行 作付

同十四年  
田牧新左衛門

一 享保十二卯年三月十七日 旨奉行 作付

同八年  
太田中左衛門

一 享保十九宮年十月十七日 旨奉行 作付

同七年  
村井五三郎

一 元文三年八月二十日 旨奉行 作付  
一 延享元子年十月十七日 旨奉行 作付  
郡奉行 兼役 作付

同四年  
秋岡左衛門

一 享保元酉年正月廿一日 旨奉行 作付  
一 延享元子年十月廿七日 郡奉行 作付  
字奉行 兼役 作付

同三年  
曾我十花



一 寬保二戌年八月廿五日字音寺法以作舟  
一 延享元子年十月廿七日字音奉行止郡東川垂没相成  
三 日 佛免

天保十二年辛丑五月八日贈寫

古田重剛



